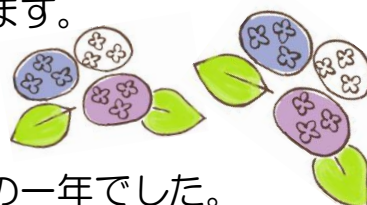


2021 年度コロナ禍の中で

6月14日に法人の理事会が行われました。理事会のはじめに、小島前理事長から2021年度の法人の取り組みを振り返っての報告がありました。その内容の一部をお伝えします。

小島前理事長からの報告の概要



コロナ感染の中、先の見えぬ不安のなかの一年でした。

コロナがどんなになろうと、福祉・支援をとめることはできません。どう工夫して支援を続けていけるかを考えていかねばなりません。コロナ感染者も出てしまう中で、保健所の指導を得ながら、利用者が安心してすごせるよう、ご家庭のご協力もいただき、すすめてきました。

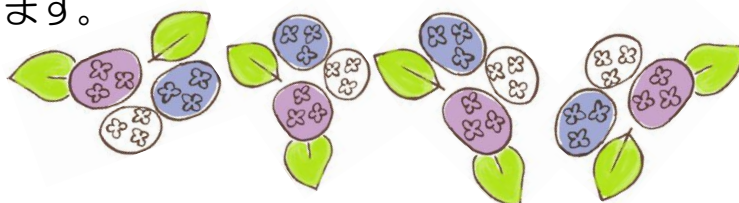
ドリームグイは、経営理念を地域社会に開かれた福祉の発信として障害のある人もない人も、共に生きていく社会の創造を目指してきました。

そのため、これまでできるだけたくさんの人、さまざまな人との出会いができるような場を作ってきましたが、コロナ禍の中で、厳しくなってきました。

今、私たちは、障害をもった彼等の「すてきな存在」を一人でも多くの人たちに出会ってもらえるような、新しいあり方を、とりくみを追求していくことが求められていると感じています。

社会的な事情をどうとらえるか、その事情を踏まえて支援を工夫することは、我々福祉現場の一人ひとりの智慧や力に基づくかと思えます。

少しずつ変化はあるものの、今後も日常的にコロナと付き合うなかで、「何ができるか何をすべきか」話し合った2021年度の思いを、2022年度には実践に移すことが私たちの法人の理念に沿うことだと思います。しっかりと支援について振り返ることができた一年だったとの思いを強くしています。



ド

リ

ー

ム

グ

イ

本

部

だ

よ

い

NO.3

2022年
6月1日